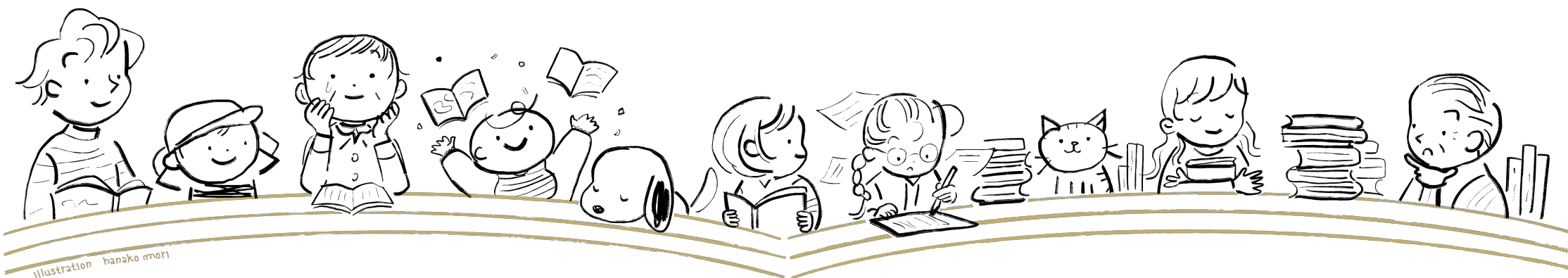




本のまち宣言 セレモニー

2026 年 9 月 27 日



このリーフレットは、三菱製紙八戸工場で作られた「ニューVマット」を使用しています。

本は、豊かな人生を送るために必要なもののひとつです。

本に触れて得られる知識や想像力は、教養と感性を育み、豊かな人生を形づくるとともに、そうして培われた市民力はまちの魅力を創出し、持続的に発展させていく力となります。

江戸時代の八戸藩では、藩士や商人・町人たちが「書物仲間」という団体をつくり、当時高価だった書物を共同で購入し、まわし読みをしていました。この本を介したつながりは、八戸地域全体の教養を育み、文化的発展に重要な役割を果たしました。

このつながりは、1874 年に旧八戸藩士が共同で開いた「八戸書籍縦覧所」へと発展し、その流れを受け継ぐ八戸市立図書館は、激動する時代においても断絶することなく、その歴史と読書文化を現在まで伝えています。

そして、2016 年には、「本のまち八戸」の推進拠点として、八戸ブックセンターを開設しました。それ以来、読書活動の推進といった従来の取組に加え、書店数の減少や紙の出版市場の急速な縮小などの社会的課題に対応するとともに、民間書店の機能を補完することで都市と地方の文化的環境の格差是正に取り組んでいます。

近年、デジタル化の進展やライフスタイルの変化などを背景に、書店数の減少や読書離れが進むなど、本を取り巻く環境は大きく変化しています。このような状況にあって、わたしたちは「本」が媒介となってなされてきた知の循環や継承によってつくられてきた活力ある八戸を未来につなぎ、持続的に発展し続けられるよう、次のことを誓い、ここに「本のまち八戸」を宣言します。

- こどもたちが、時代や国境を越えて、多くの人に愛され続ける名著・名作はもとより、時代を映す鏡となる本に触れ、親しむことができる環境の充実を図ります。
- すべての市民が、生涯を通じて信頼できる良質な知が詰まった本のある暮らしを送ることができるよう支援します。
- 本と人を結び、本を介して人と人とがつながりあう想像力と創造力に富んだコミュニティづくりをすすめます。
- 八戸ブックセンター、市立図書館、学校図書館、大学・高専図書館、書店など、「本のある場所」を学びや文化活動、コミュニティの核と位置づけ、これらを守り育て、豊かな地域文化の醸成を図ります。
- 本のまちとして、本のページをめくり得られた知の循環と継承により、次代を担う人材の育成とまちの魅力を創造し、八戸の持続的な発展を図ります。

